

2020 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	特定非営利活動法人 人・モノ・支援センター
活動テーマ	障害理解促進事業「盲導犬を通じて学ぶ・ふれあう」 視覚障害への理解を通じて、未来の地域を担う子どもたちへの気づきの種まきを行う



平成 24 年から本事業は継続して行っています。車を運転するのは大人です。親は子の鏡という言葉がありますが、時としてよい手本となっていないこともあります。これからの地域の担い手となる子どもたちが盲導犬の学習を手がかりとして視覚障害や視覚障害者のことを知り学ぶことで、自分以外の人に対して思いやる一歩となるのではないかと考え、スタートしました。

方法は、視覚障害者 2 名(うち 1 名は盲導犬使用者)、関西盲導犬協会、当法人がチームになり、奈良県下の依頼のあった小学校において出前授業を行いました。コロナ禍のため、直接的な接触は避け、子どもたち全員が考え、発言できるような内容に変更しました。

具体的には、子どもたちに視覚障害や視覚障害者のことを知ってもらい、そして、その人たちが暮らす地域の実例の一例を写真などで伝えました。そこから、どのような所が暮らしにくいのか、どうすれば暮らしやすくなるのかを一緒に考えました。このことには、答えはありません。大切なのは大人が考えるこれが正しいという答えではなく、子どもたち自身が自分で考えることなのです。そのいろいろな意見は否定されず、自由に発言していいのです。他の人の意見を聞くことにより、子どもたちがどうして?と考えることも重要なことだと考えています。今の社会には情報があふれています。これからの社会を担う子どもたちが、そのあふれる情報から必要な情報を見極める目をもって欲しいという思いも活動を通じて感じるところです。

今後も本事業は地域に種をまく草の根活動として継続していきたいと考えています。